

極東ロシアの労働事情 ——ハバロフスクで感じたこと

広大な過疎地域の中にロシア企業を中心に
工業地帯が形成されている。

元 東海大学 教授
小野豊和



食料品などが大量に流入し、中国製品専門市場
ができています。

安全・安心の日本製品に高い評価

極東連邦管区の行政、学問・文化の中心ハバロフスクは、陸路・空路・アムール河川航路の要衝でもある。総面積は約 79 万平方キロメートルで日本の約 2 倍。2016 年 10 月の国勢調査によると、総人口は約 134 万人。ハバロフスク製油所、ダリレスプロム（製材）、ダリエネルゴマシ本社（機械製作）、バルチカ、バルチモア（食品加工）などが工場を構える。また、ハバロフスクの北に位置する工業都市コムソリスク・ナ・アムールには、スホイ戦闘機・民間機工場、アムール造船工場、アムール製油所、アムールメタル（鉄鋼）、ダリレスプロム、フローラ（製材）などがある。サービス産業は小売業のほか、飲食店、旅行代理店、ホテルなどで、多くは中小企業である。

広大な土地と豊富な天然資源

ロシア全土の面積は 1710 万平方キロメートルと日本の 45 倍。ヨーロッパからアジアまで横に長く、欧州側にある地域とロシア連邦の管轄区分でいう「極東連邦管区」との違いは西洋と東洋の違いとも言える。異なる民族の集団で、ひとくくりに「ロシア人」というだけでは片付けられない異文化の世界である。

極東連邦管区の面積は 622 万平方キロメートルで全ロシアの 36% を占めるが、人口は約 620 万人、4% に過ぎない。過疎地域で人口密度は極めて低い。都市は面ではなく点でしか捉えられない。金、ダイヤモンド、石炭、石油・天然ガス、森林・水産など天然資源が豊富にある。地理的に近い中国・韓国・日本の影響を受けやすい。特にアムール川・ウスリー川に沿って長い国境で接している中国からは衣類・日用品・

極東地域における日本人の長期滞在者は領事館職員家族を含めて 45 人ほど。常駐日本人がいる企業は双日、SUMITEC、コマツ、住友林業、サミットモータ・ハバロフスク、JGC Evergreen（日揮による温室野菜栽培）、レストラン・ハナミ。商社では三井物産、伊藤忠商事、丸紅が進出している。ロシアは日本に対する親しみ、尊敬の念が強く、過去は家電製品、現在は自動車に対する評価が高い。その理由は、日